

◇ 前 田 弘 幹 君

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員、登壇を願います。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） おはようございます。6番、会派ひかり、前田弘幹でございます。今回の選挙で初めて議員になれましたので、どうぞよろしく願いいたします。

では、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

1、一次産業全般について。

（1）、本町における一次産業の現状について。

①、後継者問題をどのように捉えているか伺います。

②、燃料や飼料高騰による影響について伺います。

③、生産向上のための共同利用施設における公的な整備の考えについて伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「一次産業全般」についてのご質問であります。

1項目めの「本町における一次産業の現状」についてであります。

1点目の「後継者問題をどのように捉えているか」についてであります。家族経営における事業継承の問題であると認識しておりますが、直近5か年における事業継承の件数については、農業で3件、水産業で10件となっております。

本町の基幹産業である一次産業の後継者不足は、経営規模の縮小や廃業を招き、地域活力の低下につながることから重要な課題として捉えております。

2点目の「燃料や飼料高騰による影響」についてであります。昨今のウクライナ情勢や円安の影響等から、燃料や飼料等といった生産資材の価格高騰が続いており、一次産業の経営を圧迫している状況にあります。

また、飼料代が経営コストに占める割合が高い畜産業においては、配合飼料価格安定制度により補填金が支給されておりますが、水産業においては、同様の制度はなく、軽油引取税の免除制度しかないことから、漁業者にとっては、より一層厳しい局面を迎えていると捉えております。

3点目の「生産向上のための共同利用施設における公的な整備」についてであります。今後、後継者不足の進行や物価高騰の影響によって、より厳しい経営状況が想定される中、持続可能な一次産業を確立するためには、施設や機械等を共同利用し、地域全体で生産効率の高い経営体制を目指すことが重要であると捉えております。

また、畜産業においては、東胆振1市4町の畜産農家で構成される、とまこまい広域畜産クラスター協議会が中心となり、国のクラスター事業の活用によって、農業機械の共同利用等が進んでいることから、施設整備についても同事業の活用を図ってまいります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。町長は、このまちの基幹産業は畜産、水産等の1次

産業だと常々言われております。ほかの業種もそうですが、1次産業でも例外なく労働力不足、産業従事者の高齢化を踏まえ、早急な対応策、さらには後継者問題も深刻だと感じます。今日やってあしたできるものは当然なく、日々の積み重ねがこのまちの未来をつくると言っても過言ではありません。また、新規でスタートするのが難しいのも1次産業だと思います。

そこで、質問です。後継者問題や事業承継等をどのように考えているかお聞かせ願います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ただいまの事業継承の捉えということについてです。まず、事業継承におきましては、経営権だけではなくて有形資産と無形資産、これらを引き継いでいくというところをございまして、有形資産となると設備、機械、農地だとか、そういうものは引き継げるでしょうけれども、無形資産、人脈だとか技術、ノウハウ、これらはなかなかすぐ引き継ぐことはできないと捉えております。幾ら家族経営といってもその辺は引き継ぐ方が技術を蓄えて経営権を移譲するということが必要だと思っておりますので、やはりこの辺が一番の障壁になるのかなと思っております。また、家族と親族だけでなく後継者がいればいいですけども、いない場合は第三者継承というものも考えていかないと駄目なのかなと思っております。第三者継承になると、第三者は他人でございますから、有形資産に設備、農地、これらに評価をつけて対価としてお金をいただくというようなことも発生していきますので、事業継承よりさらに障壁が高くなるのかなと思っております。

いずれにせよ、事業継承するためにはお金、技術、これらは当然重要なものになって、皆さん新規でやるときには全てない状態から始まりますから、前田議員おっしゃるとおり、畜産については何もしから始めると億単位のお金が必要になりますので、現在白老町を見ますと昭和29年に畜産が始まり、今は3代目から4代目の方々が畜産を営んでおりますので、中には次の4代目、5代目というお子さんもいるけれども、中にはこの営業で経営が終わってしまうような農家も見受けられますので、そういうところをうまく新規就農を目指す方とマッチングさせて畜産を引き続き持続可能なものにしていく必要はあるのかなと捉えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。親から子へではなく、他人による事業承継、または廃業した場所を買い取っての新規参入もしかり、このまちの1次産業を維持、存続させる上では必要だと考えます。今課長がおっしゃられたように、借入れの問題や土地、機材、これらの支払いが残っているという場合もあって、なかなかスムーズな移行ができないケースもあるように感じます。そんなときに銀行や農協、漁協等の金融機関を頼ることが一般的かとは思いますが、何分1次産業は担保物件がなかなか弱くて、銀行との話合いでも早々には結論が出ない、そのような産業だと思います。また、昨今の法規制の改正等によって、例えばトラクターの運転免許、これらも今まで普通免許で乗れたものが大型特殊が要るとか牽引が要るとかという部分、これらも補助が全くないという状況だと聞いております。後継者、事業承継者、新規就農者を含め、町として何かしら補填制度、補助制度、融資制度があるかを伺います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ただいまの支援制度でございます。新規就農を行うためには、まずは国の支援制度がありまして、先ほど言ったようにまず技術的な部分を研修するということが就農準備資金として2年間150万円、国のほうから支援をいただける制度があります。これを有効に活用しまして、まず研修して技術を蓄えてくると。その次に、経営開始直後の新規就農者に対しましては経営開始資金、これは年間150万円で3年間支援を受けられます。これを受けながら、助走期間を経て就農を安定化させていくというようなところかなと思っておりまして、さらには機械だとか設備の導入にお金がかかりますので、それらに対しては経営発展支援事業といった新規就農者にはたしか3,700万円の限度額において融資される制度もあります。これらをうまく使いながら助走していくというようなことかなと思っております。

また、近隣の市町村をいろいろ調べました。新規就農者に対する支援となりますと、まず国の制度を使いつつ、まちによっては地域おこし協力隊制度で人をお呼びするだとか、あとは移住、定住と絡めるだとか、あとは新規就農者の家を措置して住宅を提供するだとか、胆振管内でもそのような新規就農者に対するの制度があります。本町としましては、新規就農者に対する支援というのは現在ない状況でございます。国の制度を活用しながらということで進めておりますけれども、近隣を見ますといろいろな知恵を出し合って町独自の支援制度はやっているのを見受けられますので、今後白老町で何ができるか、その辺は検討していく余地は必要なのかなと捉えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。ぜひまだまだ将来性あるこのまちの1次産業の未来に向けて、関係各所と連携の上、今言った制度はなかなかハードルが高いと私は考えています。そこに行き着くまで多分数か月、数年かかってもらえるかどうかというような補助制度だと私は思っています。ぜひ関係各所と検討しながら町独自の制度を考えていただければと思います。

それでは、次の質問に移ります。燃料や飼料高騰による影響について伺います。これまでも軽油等の燃料に関しては、先ほど町長のほうからも言われましたが、国からの助成が入っているとは聞いておりますが、こちら町独自の助成はあるかをお聞きします。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 燃料と飼料の価格高騰の対策ということでございまして、今議員おっしゃられたとおり、重油、軽油価格が値上がりしてございまして、今年度比較しますと令和5年の7月から9月のA重油でリットル109.6円、令和3年度の同月、リットル77.3円と比較しまして32.3円の上昇になっております。餌代につきましては、令和5年9月時点の配合飼料でトン9万7,763円、同年2月時点でトン10万222円と比較し、減少傾向にはありますけれども、価格は高値で推移して止まっているということでございまして。水産業におきましても、主要漁船である4.9トンの漁船で比較しますと、4.9トンの船の平均燃油使用料が1万5,000リットルでございます。各単価を乗じると、令和5年度単価では164万4,000円、令和3年度単価では115万9,500円、4.9トンの漁船で見ますと48万4,500円の経済的な負担が生じてございます。

この燃油価格につきましては、過去に国の交付金を活用し、支援してきておりますけれども、

現在これらに対する支援はありません。これは、来年度に向けてどのように農業、水産業、1次産業に対して支援していけるかということは検討していく必要があるのかなと思っておりますので、現状を捉えながら、どのような支援策を講じていくか今現在検討しているようなところでございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。このままではどの産業も八方塞がりではないでしょうか。燃料でいえば、農業ならトラクターや子牛に飲ませるミルクの過熱、また漁業なら船、林業ならチェーンソー等々、日々使用する機材だけでも相当な負担額になると考えます。また、特に大規模農場では一日の餌代もばかにならない金額だと聞いておりますし、牛1頭、たった1頭売るだけで20万円ぐらい赤字になるという話も聞いております。牛だと売れるまで、肉にするまで生きていだけで餌を食べます。漁師も近年の漁の不漁が多く、燃料代が高ければおのずと漁に出ないということも考えられます。物を作る、取るまでに相当な経費がかかるのが1次産業であります。この1次産業を支えるためにも早急な対応を協議いただきたいと思いますが、何か考える余地があるか、町長にお聞きします。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 1次産業に関するご質問でございます。町としてもこれまでコロナ禍、そして物価高というようなことで農業者、漁業者の方々がそういった部分で大変苦勞されているということはもちろん重々承知しているところでございます。これまでは国の交付金を活用して1次産業事業者の方々に経済的な支援事業もさせていただきました。今現状としましては、昨日の物価高騰のお話で皆さん苦しんでいらっしゃることを踏まえて全町民の皆さんに商品券を配付させていただいているですとか、そういうような事業もさせていただいておりますので、町として何ができるか、すべきことは何か、できることは何かしっかりと捉えた中で今後も支援策については検討を深めてまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。1次産業の質問では最後になりますが、生産向上のための共同利用施設における公的な整備の考えについて伺います。

現在白老牛改良センターがありますが、そのほかの施設を含めて利用実態を伺います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 本町における共同利用施設の現状でございます。議員のおっしゃられるように、平成12年に整備した白老牛改良センター、ここは96頭タイプで現在も肥育を行っております。また、畜産でいきますと堆肥舎が共同利用施設として使われてございます。水産業においては、荷さばき所とか、あと活魚水槽、あと製氷機、これらが共同利用施設として現在使われてございます。これらを踏まえてほかのまちとかを見ますと、施設の共同利用となると例えば畜産では担い手不足というところでキャトルセンターを設置し、3か月ぐらいの離乳した後の牛をそのキャトルセンターに集めて10か月まで育成していくという施設を設置し

ているまちが、高齢化に伴ってそういう施設を道内でも今現在2か所ぐらい設置してきておりますので、現状白老町も畜産でいいますと肥育の共同施設はありますけれども、こういう繁殖を主体とした共同施設は今ありませんので、高齢化だとかを見据えていったときにはこういう施設も有効なのかなとは考えております。

いずれにせよ、私も見たことがないですから、どのように使われているのか、時間があれば見てみたいなと思っております。この辺は、共同施設といっても整備するにはいろいろとお金がかかかりますから、これも先ほど言ったようなクラスター事業など、国の事業を活用しながら施設整備ができないか検討していく余地はあるのかなと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。改良センターでは肉にするための肥育牛を管理していますが、ほかのまちでは課長がおっしゃったように子牛や母牛などを預かるキャトルセンターというものがあります。白老町の若手農家たちも視察などに行っており、関心がある事業の一つと聞いております。個人農家は人手不足、高齢化もあり、生産、育成、肥育と一貫生産が理想とはいえ、大変なことと思います。キャトルセンター事業は本当に有効な施設と考えますが、町として建てられるのかというか、今後検討を考えているのか。

また、漁港があるのに朝取れ市場というか、売るところが全然ないよねということをよく観光客の方から聞かれます。名前が出ていないだけだとは思いますが、白老町のスーパーでも白老産何とか、朝取れ何とかという表記がなかなか見えない。そのようなことをよく聞かれます。漁港付近での朝市や例えば第3商港区の漁業共用のための設備などについてどう考えているかお聞かせ願います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） まず、キャトルセンターの部分につきましては、農協の青年部等も視察しているとは聞いております。この辺につきましては、農協といろいろと協議しながら、必要性だとか有効性だとかを考えていかないと駄目なのかなと思っておりますが、いかんせん広域農協でございますので、幅広く白老町からむかわ町まで農家がいる中でいくと農協も白老町だけということにはなかなかならないものですから、その辺は広域農協といろいろと協議しながら、補助事業を使いながら有効な施設を整備できるか、その辺も他の市町の事例を見ながら判断していく、勉強していく必要があるのかなと思っております。

朝市の売店でございますけれども、確かに白老町も登別市とJAと町と共同で年間数回朝市を行っております。そのお客さんからも、この朝市以外なかなか取れたての魚を売っていただけるような、買えるような場所はないですねというようなお声はいただいております。現在町内にも漁師が自分でお店を展開して取れたての魚を提供するというようなお店も見受けられますので、こういうお店が増えていけば、取れないものがないという特徴的な白老の海でいきますと白老町で多く魚が手軽に買えるようなところは必要なかなと思っております。この辺は、農協とも朝市実行委員会の中でまた新たな手法で魚とかを提供できないかということは今年度に入ってもいろいろと話をしておりますので、場の提供というものは漁組とも連携しなが

ら考えていきたいなどは思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。何度も言いますが、1次産業はこのまちの未来だと思っております。産業としてももちろん、観光資源としても大切な分野です。最初にも言ったのですが、1次産業は一朝一夕には成り立たない産業ですから、白老町だけでなく関係各所と密な協議をしていただいて、これからも存続できるよう支援を期待しております。

では、続きまして2番目の質問に移ります。

2、地域活性化イベントについて。

(1)、ポロトミンタラを活用したイベントの開催状況及びその効果について伺います。

(2)、イベント時における地域公共交通の運行に向けた検討について伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「地域活性化イベント」についてのご質問であります。

1項目めの「イベントの開催状況と効果」についてであります。

今年度開催したポロトミンタラフェスティバルにつきましては、7月にアイヌ文化体験やステージショーなどが楽しめる「ウポポイ開業3周年記念フェスティバル」、8月には夏休み中の子供たちを中心に楽しめる「ポロトミンタラこども祭り」を開催し、多くの住民、観光客に楽しんでもらうとともに、白老町の食や特産品をはじめとした観光PRをすることができたと捉えております。

2項目めの「イベント時における地域公共交通の運行に向けた検討」についてであります。

これまで町は多様なイベントの中で臨時バスやシャトルバスの運行をしてまいりました。

現在、町が運行している元気号、ぐるぼん、カムイ号につきましては、イベントに合わせた運行は実施しておりませんが、町内の様々なイベントにおける移動手段の確保は重要であります。

今後は道路運送法や地域公共交通の活性化及び再生に関する法律など、内容を精査し可能な範囲で運行できるよう努めてまいります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。今回の一般質問でも結構多く出ておりますタウンミーティングという中で、イベントが少ない、イベントがないといった意見が出たと聞いております。ポロトミンタラ周辺でのイベントが年に数回開催されていますが、多くの町民から、それはいつやっていたのか、何をやっていたのかという声が、開催そのもの自体が分かりづらいという話も大変多く聞こえております。これまでの開催状況と効果、PR方法をお聞きします。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） ただいまのご質問にお答えいたします。

1答目、町長からお話もありましたとおり、今年度につきましては7月16日にウポポイ3周

年連携事業としまして野外ステージを中心としたイベントを実施しております。また、8月10日から12日までの3日間につきましては、こども祭りを中心として合計6,366人のお客様にご来場いただいております。

このポロトミンタラフェスティバルにつきましては、令和2年度から実施しておりますが、財源はアイヌ活性化のための交付金を活用しておりますが、令和2年度におきましては約30日間、天候の関係で実質28日間で行っていただきましたが、オハウの試食体験ですとか、町内事業者、または福祉団体、それから姉妹都市、商工会青年部の出店など、そのほかにステージショーや日胆、胆振、日高地域のお店に来ていただいたりですとか、ミニ牛肉まつり、音楽祭りということで約28日間にわたって4万6,693人のお客様にお越しいただいております。また、令和3年度におきましては7月17、18日、8月21、22日、10月16日の計5日間実施しております。内容としましては開業1周年記念イベント、こども祭り、音楽祭等で4,650人ということで、令和3年度は特にコロナ禍ということもありまして来場数がちょっと少なかったと捉えてございます。また、昨年度、令和4年度につきましては同じく7月16日、8月11、12日、9月17、18日の計4日間実施しております。開業2周年記念ということで、音楽フェス、こども祭り、秋のスポーツ祭を実施しており、6,792人の来場をいただいております。

PR方法といたしますか、周知方法でございますが、過去、令和2年度、3年度におきましては折り込みチラシや新聞広告、ホームページの告知、そのほか町内でのポスター掲示を行ってまいりました。令和4年度は、それに加えてSNSを活用した周知方法を行ってきたところでございます。今年度は、新聞折り込みは行わなかったのですが、ポスターの掲示やホームページ、それからSNSの活用で昨年以上にお客様に来ていただいたのかなと捉えてございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。もしかするとほかの団体の部分でも見たのかもしれませんが、ポロトミンタラ周辺でのイベントは数回見に行かせていただきました。気候や気温、日程的なもの、様々な条件があると思いますが、その都度で大きく参加者の数が違ったように見受けられました。今おっしゃったように、4万6,000人も来ているのはちょっと意外でしたけれども、会場を見たときに人がいるときと人がいないときという差が結構あって、それは何なのかということを含め、今後に向けた課題や改善策を伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） まずは、今までイベントを実施してきた私なりの感じ方としましては、時間帯ですとか、やはり天候にすごく左右されるなということが1つ挙げられるかなど、子供のイベント、これをやったときには多くお客様が来ているかなと捉えております。というのは、この時期ちょうどコロナの関係がございまして、子供たちを含めた外出する機会ですとか、お祭りもイベントも何もない中でポロトミンタラフェスティバルだけは実際やらせていただきました。私の感想としては、非常にお子様と、それから親御さんですとか、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に併せた中で子供たちの笑顔がたくさん見られたなという感想を持ってございます。そういった中では子供のイベントをやったときが一番多くお客さんがご来

場いただいたと思っていますので、今後の課題の部分の整理の一つとしては、こういう有効な部分も見極めながらやっていかなければならないなと思っています。

今まで今年度も入れますと4回実施させていただいておりますが、議員のほうからもご指摘ありました例えばPRの周知不足があるのではないかとといったようなところも確かにございます。それらもまだまだ工夫の余地があるかなとは思っていますし、それから先ほど質問の中にもありました足の確保の問題もそうです。そういったことも十分どういう形でできるかということも考えていかなければならないのかなと。さらには、我々が今非常に大きな課題として捉えているところは、4年間やらせてもらってある意味定番化してきたことはありますけれども、その裏返しとして、いわゆるマンネリ化といいますか、来られているお客様に飽きられていると言ったら語弊があるかもしれませんが、そういった部分も否めないと我々も捉えておりますので、今後のポロトミンタラフェスティバルをはじめとして各種イベントにおいても反省を踏まえながら、どう改善していくかがこれから問われるのだろうなと思っていますので、その点を十分考えながら改善していきたいと考えてございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。子供イベントに関しては、どちらかというと町内関係だとは思いますが、ポロトミンタラ周辺でのイベントというものは多分基本観光客用という部分が多いと思います。今後ポロトミンタラも含めてではありますけれども、観光客回遊のためにもぜひ鉄南のほうでもイベントを考慮していただきたいと思います。

次に、イベント時における地域公共交通の運行、これは先ほどの町長の答弁にもありましたけれども、臨時便の運行の検討について伺いたいと思います。先ほどタウンミーティングでイベントが少ないと言われていますが、ポロトミンタラ周辺以外でもイベントは開催されております。どこで何がということは言いませんけれども、観光客の町内回遊も含めた公共交通の臨時便等の考えはあるか、町長の答弁の中で今後運行できるよう努めてまいりますとはおっしゃってございましたけれども、どのように考えているか伺います。

○議長（小西秀延君） 工藤経済振興課長。

○経済振興課長（工藤智寿君） 足の確保は、先ほども答弁させていただいたとおり、お客様の中には様々な理由で自家用車ではなくて様々な公共交通機関ですとか、そういったものも使ってこられるとは思いますが、町として多くの来場を見込むのであれば、シャトルバスですとか臨時バスというのも重要になってくるのかなと思っています。また、来年、まだ確定はしていませんが、牛肉まつりにおいても交通の便を図っていくということも検討されていると聞いてございますので、ポロトミンタラフェスティバルのみならず、町内の各イベントにおける足の確保ということは先ほども申し上げましたとおり重要な課題の一つと捉えておりますので、十分勘案しながら進めてまいりたいと思っています。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。今回の一般質問で何度も取り上げられておりますけ

れども、せっかくの公共バスもまずは乗ってもらわなければ、よさ、便利さというものを実感することができないと思います。時刻設定、停留所設定、担当課の違い、法的問題、申請等、多岐にわたる諸問題があるとは理解しておりますけれども、イベントでまず人を乗せるということが一番簡単なことかなと思いますので、ぜひ検討いただきたいと思います。

続いて、3番目の質問に移ります。

3、教育全般について。

(1)、児童減少に伴う、小学校の統廃合について伺います。

(2)、空き校舎・空き教室の現状と今後の利活用について伺います。

(3)、老朽化する校舎の改築について伺います。

○議長（小西秀延君） 安藤教育長。

〔教育長 安藤尚志君登壇〕

○教育長（安藤尚志君） 「教育全般」についてのご質問であります。

1項目めの「児童減少に伴う、小学校の統廃合」と2項目の「空き校舎・空き教室の現状と今後の利活用」については関連がありますので、一括してお答えいたします。

小中学校の適正配置については、人口減少、少子化の状況を見通しながら、望ましい教育環境の在り方について検討し、その考え方を「基本計画」として策定を進めております。

また、現在使用していない旧校舎は、普通財産として町が管理しておりますが、校舎の劣化の状況を踏まえながら、利活用の検討を進めております。

さらに、各学校には余裕教室はないものの、今後さらなる児童生徒数の減少により教室の活用の検討が必要になるものと考えております。

3項目めの「老朽化する校舎の改築」についてであります。

校舎の老朽化対策としては、学校環境改善交付金等を活用した改修工事を、平成24年度に旧緑丘小学校、25年度に白翔中学校、27年度に竹浦小学校、今年度に菟野小学校と順次実施してまいりました。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） これも今回の一般質問では毎回のように出ているエアコン問題を考えても、効率のよい設置方法の一つに学校の統合があると思います。現白老小学校の統合問題のときには、行政側の説明下手な部分が多々見受けられたかなと当時の親御さんたちの話を聞いております。様々な問題があるでしょうが、何のためにこの統合があるのか、真摯な合意が得られるような説明で今後計画どおり進むよう期待しますが、現段階での問題点は何があるかお聞きします。

○議長（小西秀延君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） 前田議員のご質問にお答えする前に統合に関する整理をさせていただきたいのですが、教育長の答弁の中でも適正配置とお答えさせていただきました。統合は適正配置の一つの手段でありまして、適正配置は何のためにするかというところでききますと、学校教育の観点から考えますと子供たちによりよい教育環境をどのように充実させてい

くかという部分において適正配置が必要であるという考え方になるのではないかと考えております。現段階として基本計画を策定しておりますと答弁しておりますが、この基本計画につきましては先ほど現白老小学校の統合の時点の部分についてもご指摘をいただきましたが、その前には白翔中学校が平成25年度にございまして、その当時の保護者からもやはり統廃合する部分に当たっては保護者の受け止め方が様々であったという部分もお聞きしております。いつかなるかもしれないとは思っていたけれども、一体いつなるのだろうか、急にきたというような部分もあったとも聞いておりました。この基本計画を定めるに当たって、今教育委員会として一番大事に思っているのはどのような状況を適正配置に当たる条件として定めるか、要件として定めるかというところをまずこの基本計画の中で定めてまいりたいと考えておりますので、統合ありき、全てで基本計画を定めようとは考えておりませんので、統合も含めた様々な適正配置の手法というのがございますので、その部分についてこの基本計画の中で定めると考えた
いと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。2番目の空き校舎、空き教室の現状と今後の利活用についてということで、答弁の中で旧校舎は普通財産として町が管理しておると言われております。その中で、現在空いている校舎は今後どのように利活用するか、何か案があればお聞き
します。

○議長（小西秀延君） 増田企画財政課長。

○企画財政課長（増田宏仁君） 普通財産の管理ということで、企画財政課が普通財産の管理
をしておりますので、私からお答えさせていただきます。

旧校舎の関係ですけれども、それぞれの学校によって建物の状況とかもいろいろ、老朽化が
著しい校舎もあれば、まだまだ使えるという校舎もありますので、各校舎の状況を見ながら、
使えるものがあれば何かしら町として活用する、あるいは民間事業者のほうに活用の方法をお
聞きするとかといった方法も考えながら検討していきたいなと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。また、空き教室というものが今はないということで
答弁をいただいておりますけれども、言い方が適切か分からないですけれども、小学校、中学校
を含めて学校というものは結構まちのいいところにあるというか、便利なところにあるという
部分を考えると、放課後児童クラブや高齢者大学の例えばサテライト、世代間交流教室等、地
域コミュニティとしてそういう場所を使えないのかなということを常々思っているのですけれ
ども、この時代は不特定多数の人が出入りするということは防犯上も危ないかなという部分
はあるのですけれども、法的も含めてその辺はどう考えているかお聞かせ願います。

○議長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 議員からご指摘いただいた内容は、まさに開かれた学校の一つの姿
だと私は考えております。確かに安全面や管理の面でいろいろこれから検討したり、ハードル

もないわけではないと思いますが、ただ地域の学校という、そういう位置づけとしては、もちろん第一義は子供が学ぶ場であることは間違いのないのですが、地域の人々にとってもその校舎を活用して、町内会の何か会合を行うだとか、そういうことも含めてその活用については今後十分検討する余地はあると理解しております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。続いて、3項目めの老朽化する校舎の改築について、答弁の中では各学校は既に改築工事を済ませているとなっておりますが、現段階ではどの校舎も改築がないということよろしいですか。

○議長（小西秀延君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） 改築する余地がないと言われる部分については、この中で答弁していない虎杖小学校は一切改築の手は今回つけていません。ただ、虎杖小学校が建った年数というのは一番新しいほうになるので、今のところ修繕、改築等を含めて見ていないというところがあります。あと、学校環境改善交付金を使ってという部分で、この交付金のメニューの中に老朽という対策のメニューが実はありまして、それを適宜使ってしてきたのですが、その交付金メニューの中から老朽という補助メニューが実はなくなってしまったということもあるものですから、今後先ほどの適正配置も含めての部分でなっていくと思いますので、その辺りは校舎の改築も含めて検討と思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、前田です。実際校舎を見ると、自分が通っていたという部分もありますけれども、どうしてもこれで改修はいいのかなと見受けられるところも多々あると思います。実際に見るというのと聞くというのでは違いがあるなと感じております。

最後になりますけれども、小学校校舎であれば体育館やグラウンド、もしくは遊具等も設置されているように見受けられますが、その辺のことの補修はどうなっているのか、また今後利用できるのかを聞いて最後にしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小西秀延君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） 学校の維持管理に関しましては、法定点検と言われる決まった点検がありまして、それは委託しながら点検を行っております。その点検の中で子供の部分、法的に違法がある場合については速やかに修繕等を行っていくというところもあります。ご指摘のとおり、今回新しく改築された萩野小学校と白老小学校、私も学校訪問に行きますので、見比べると当然おっしゃるような部分はあるかと思えます。ただ、建築法上、法的にそこは違法がないような状況で修繕と改築等を行われているというところと、子供たちが安全に使えるところを第一前提で考えておりますので、見た目の部分についてご指摘があることは受け止めたいと思います。

体育館、グラウンド、それから遊具関係につきましても必要な部分は修繕、整備を適宜行っております。ただ、やはり遊具が少なくなってきた部分で子供たちから遊具の新設を望む

声等も上がってはおりますので、この部分については必要性も含めた中で進めてまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君）以上で6番、前田弘幹議員の一般質問を終了いたします。